

日本語教育実習Ⅰ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考 英米言語文化学科対象

【授業のねらい】

「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ指導理論と演習内容を実際に応用して行く。「教育実習Ⅰ」では、主に大学内の日本語クラスの授業見学を行い、評価及び報告レポートを提出する。また、初級レベルと中級レベルの模擬授業実習も行う。その際、授業実践の方法論をふまえながら学習指導案や教材作成もする。さらに、それぞれの模擬授業に対する質疑応答・感想・意見を交わし論議を深めていく。協定校からの短期研修生のための日本語研修期間中には、グループ・ティーチングなども行う。

【授業の展開計画】

最初の授業で詳しい授業計画を配布予定

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語現代文法Ⅰ・Ⅱ」は、履修済みのほうが望ましい。
「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」は、履修済みのこと。

【評価方法】

積極的な教室活動等への参加、授業態度、日本語のクラスの授業見学、報告レポート提出、初級レベルと中級レベルの模擬授業、課題等、総合して行う。

【テキスト】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考文献】

『日本教育辞典』日本語教育学会編(大修館書店)，『日本語授業学入門』縫部 義憲 (歴々社)
『日本語教育ハンドブックシリーズ』国際交流基金編，『創造的授業の発想と着眼点』清 ルミ (アルク)

日本語教育実習Ⅰ

担当教員 佐々木 香代子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考 日文対象

【授業のねらい】

- ①日本語初級レベルの基本的な教室活動の流れを学び、実践することができる。
- ②日本語初級教科書の文型・文法を分析し、直接法で導入することができる。
- ③日本語初級レベルの基本練習と会話練習をデザインすることができる。
- ④上記①②③のために、必要な教材を作成することができる。
- ⑤授業観察、授業後のディスカッションを通して、授業を分析することができるようになる。
- ⑥内省を通して、自身の授業を客観的に評価できるようになる。

【授業の展開計画】

- | | | |
|-----|-----|---|
| 10月 | 2日 | オリエンテーション、クイズ（実習授業に入る前の基本的な理解の確認）
発表および模擬授業の役割分担 |
| | 9日 | 初級の教室活動①：直接法による導入 |
| | 16日 | 発表 |
| | 23日 | 初級の教室活動②：基本練習 |
| | 30日 | 発表 |
| 11月 | 6日 | 初級の教室活動③：会話練習その1 |
| | 13日 | 発表 |
| | 20日 | 大学祭で、休講 |
| | 27日 | 初級の教室活動④：タスクを課した会話練習その2 |
| 12月 | 4日 | 発表 |
| | 11日 | 授業の観察と評価 |
| | 18日 | 初級模擬授業① |
| | 25日 | 初級模擬授業② |
| 1月 | 8日 | 初級模擬授業③ |
| | 15日 | 初級模擬授業④ |
| | 22日 | 初級模擬授業⑤ |
| | 29日 | 初級模擬授業⑥ |

【履修上の注意事項】

- ①6回以上欠席した場合は、「不可」とする。
- ②30分以上の遅刻を3回した場合は、1回欠席とみなす。
- ③発表および模擬授業について、これらをしなかった場合は、それぞれゼロ評価とする。

【評価方法】

- 授業態度（グループワークへの参加度、授業への積極性）：10%
 発表（初級の教室活動①～④）：20%（目標②③④） 模擬実習：30%（目標①②③④）
 実習改善案の提出：10%（目標①②③④） 実習評価シートの提出：15%（目標⑤）
 実習自己評価シートの提出：15%（目標⑥）

【テキスト】

なし。ただし、模擬授業の際に、下記の日本語学習用教科書を使用する。
 『みんなの日本語Ⅰ』スリーエーネットワーク
 『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク

【参考文献】

授業中に提示する

日本語教育実習Ⅱ

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化学科対象

【授業のねらい】

留学生等のための日本語クラスや夏期日本語研修プログラムで教壇実習を行なう。実習の内容は、ニーズ調査の実施、プレイスメント・テストや習熟度テストや教材作成、コースデザイン等を行い、教材研究や指導案作成の後、授業を担当していく。また、選択肢として、海外教育実習を行なうことも可能である。その場合は、台湾の東海大学か中国の福建師範大学において3週間の実習を行なうことになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	『沖縄事情』教材開発について
3	会話の指導について
4	聴解の指導について
5	作文の指導について
6	文法の指導について
7	語彙指導について
8	日本事情の指導について
9	評価法について
10	ニーズ調査、プレイスメントテスト等の作成
11	模擬授業→教壇実習①
12	模擬授業→教壇実習②
13	模擬授業→教壇実習③
14	模擬授業→教壇実習④
15	模擬授業→教壇実習⑤
16	まとめ

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習」「日本語現代文法」「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」
「日本語教育実習Ⅰ」を履修済みのこと

【評価方法】

総合的に評価する。実習の準備から授業そして教材作成等すべてが評価の対象となる。

【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

【参考文献】

日本語教育実習Ⅰで示した参考文献を活用する。

日本語教育実習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考 英米言語文化学科対象

【授業のねらい】

大学内の外国人科目等履修生のための日本語の初級と中級レベルのクラスで教育実習を行う。また短期日本語研修生のための授業を実際に担当する。実習の内容として、ニーズ調査方法の検討及び実施、プレイスメント・テストや習熟度テストの作成と実施、目標の設定とコースデザインの検討等がある。そして指導案作成の後、検討し、リハーサルを行い、実際に授業を担当する。さらに教材作成、評価とフィードバックも行う。

【授業の展開計画】

最初の授業で詳しい授業計画を配布予定

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語現代文法Ⅰ・Ⅱ」を履修することが強く望まれる。また、「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育実習Ⅰ」は履修済みのこと

【評価方法】

総合的に評価する。実習の準備から授業そして教材作成等すべてが評価の対象となる。

【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

【参考文献】

日本語教育実習Ⅰで示した参考文献と以下を活用する。『わざ 光る授業への道案内』今村 和宏(アルク), 『心と心がふれ合う 日本語授業の創造』縫部 義憲(歴々社), 『日本語教育の実習 理論と実践』岡崎 敏雄他(アルク)

日本語教材研究演習

担当教員 尚 真貴子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 英米言語文化学科対象

【授業のねらい】

日本語教育に必要な「教材」に関する専門的な知識・能力を習得する。日本語教育用教材の基礎知識を学び、教材全体を体系的に把握し比較分類する。また個々の教材の分析などを通して、実際の現場でよりよい教材の活用ができることを目標とする。

具体的には、「教材論の体系的把握」「学習者と教材」「コースデザインと教材」「教科書と副教材」「教材の比較分類」「教材の具体的使用法」「初級教科書の全体分析と課分析」「視聴覚教材」などが内容となる。

【授業の展開計画】

最初の授業で詳しい授業計画を配布予定

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語現代文法Ⅰ・Ⅱ」を履修することが強く望まれる。

【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視。よって授業態度、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。さらに期末テストの評価が加わる。

【テキスト】

『みんなの日本語(初級Ⅰ本冊)』 スリーエーネットワーク

『みんなの日本語(初級Ⅱ本冊)』 スリーエーネットワーク

プリント使用。必要に応じて資料等を配布。

【参考文献】

『日本語教材概説』 河原崎 幹夫他著 北星道書店, 『日本語教科書ガイド』 国際交流基金

『日本語教授法』 石田敏子著 大修館書店, 『日本語教育の教材』 岡崎 敏雄著 アルク

日本語教材研究演習

担当教員 佐々木 香代子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考 日文対象

【授業のねらい】

- ①国内・海外の日本語教育について、概略を把握することができる。
- ②国内で日本語教育がどのように行われているか、その実際と課題を対象者別に理解し、併せて学習者にとっての「日本語能力」とは何かについて考えることができる。
- ③海外の日本語教育について調べ、その国・地域の特徴を述べることができる。
- ④日本語（教育）と国語（教育）の違いについて考えることができる。
- ⑤日本語教育で使用される教材の概略を把握することができる。

【授業の展開計画】

- 4月10日 オリエンテーション（「日本語教育とは？」）発表等の役割分担
 17日 学習者と日本語教育機関
 24日 留学生に対する日本語教育（一部発表）
- 5月1日 7月20日振り替えて、休講
 8日 児童・生徒に対する日本語教育（一部発表）
 15日 ビジネス日本語（一部発表）
 22日 地域で生活する人のための日本語教育（一部発表）
 29日 世界の日本語教育（発表）
- 6月5日 世界の日本語教育（発表）
 12日 日本語教育と国語教育（一部発表）
 19日 日本語文法と国文法
 26日 教材分析の方法
- 7月3日 教材分析（発表）
 10日 教材分析（発表）
 17日 教材分析（発表）
 24日 教材分析（発表）

【履修上の注意事項】

- ①6回以上欠席した場合は、「不可」とする。
- ②30分以上の遅刻を3回した場合は、1回欠席とみなす。
- ③発表をしなかった場合、その分はゼロ評価とする。

【評価方法】

授業態度（グループワークへの参加度、授業への課題の提出）：10%（目標①②④⑤）
 発表（世界の日本語教育）：15%（目標③） 発表（教材分析）：30%（目標⑥）
 一部発表：15%（目標②④⑤） 復習クイズ：10%（目標①②④⑤）
 コメントシートの提出：10%（目標③⑥）

【テキスト】

なし。ただし、教材分析の際に、下記の日本語学習用教科書を使用する。
 『みんなの日本語Ⅰ』スリーエーネットワーク
 『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク

【参考文献】

授業中に提示する

日本語教授法演習 I

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化学科対象

【授業のねらい】

日本語教授法演習Iでは、外国語としての日本語教育が目指すものに触れた後、日本語教育の歴史的背景を概観していきます。そして主要な教授法とその基盤となっている第二言語習得理論に触れ、教師の役割、指導技術、そして手順等を比較し、長所・短所を実践的に見極めていきます。また、日本語の音声、文字、語彙等の特徴を捉え指導法を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	日本語学習者と日本語のレベル
3	外国語教授法のいろいろ①
4	外国語教授法のいろいろ②
5	外国語教授法のいろいろ③
6	外国語教授法のいろいろ④
7	日本語教育の歴史①
8	日本語教育の歴史②
9	日本語の音声の特徴とその指導①
10	日本語の音声の特徴とその指導②
11	日本語の文字とその指導①
12	日本語の文字とその指導②
13	日本語の語彙とその指導①
14	日本語の語彙とその指導②
15	学習者の疑問に答える
16	まとめと最終試験

【履修上の注意事項】

履修上の注意としては、「日本語表現法演習I&II」「日本語現代語文法I&II」「日本語教材研究演習」等を履修済みのこと。積極的に教室活動等に参加すること。

【評価方法】

総合的に評価しますが、特に平常点を重視されます。従って、授業への参加度、提出物、研究発表等が重視されます。それに期末テストの評価が加わります。

【テキスト】

『ベーシック日本語教育』佐々木泰子著』（ひつじ書房）
『新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』（アスク）
『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』（アスク）

【参考文献】

『日本語教育ハンドブック』日本語教育学会編
『実践日本語教授法』名柄迪著
『日本語教育辞典』日本語教育学会編他

日本語教授法演習 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 英米言語文化学科対象

【授業のねらい】

外国語としての日本語教育がどのように始まり、どのような経緯を辿ったか概観した後、現在国内外で広く用いられている教授法・指導法がどのような言語理論、学習理論、教授理論に基づいているか比較検討する。実際の授業の進め方については、別にシラバスを作成しクラスで配布する。

【授業の展開計画】

- 1 週目 概要紹介
- 2 週目 日本語教育の特色
- 3－5 週目 第二言語習得理論（中間言語論を含む）
- 6－10 週目 外国語教授法のいろいろ
- 11－13 週目 日本語教育の歴史・日本語教育の目標
- 14－15 週目 日本語の音声の特徴とその指導・日本の文字とその指導

【履修上の注意事項】

『日本語表現法演習 I・II』『日本語現代文法 I・II』を履修することが強く望まれる。また、『日本語教材研究演習』は履修済みのこと。

【評価方法】

総合的に評価する。授業態度＋授業への参加度＋発表＋レポート＋テスト

【テキスト】

- (1) 石田 敏子『日本教授法』 大修館書店
- (2) 『みんなの日本語（初級 I 本冊）』

【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

日本語教授法演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 英米言語文化学科対象

【授業のねらい】

『日本語教授法演習Ⅰ』に引き続き、種々の日本語教授法と指導法の理論と実践について考察する。加えてカリキュラムの立て方とコース・デザインの方法についても観る。実際の授業の進め方については別にシラバスを作成し、クラスで配布する。

【授業の展開計画】

- | | |
|---------|----------------------|
| 1-2週目 | 日本語の語彙とその指導 |
| 3-4週目 | 文法の指導・ドリルの種類 |
| 5-6週目 | 聴解の指導 |
| 7-8週目 | 話し方の指導 |
| 9-10週目 | 読解の指導 |
| 11-12週目 | 書き方の指導 |
| 13-14週目 | 日本語教育における評価法 |
| 15週目 | カリキュラムのたて方・日本語教師の心構え |

【履修上の注意事項】

『日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱ』『日本語現代文法Ⅰ・Ⅱ』を履修することが強く望まれる。また、『日本語教材研究演習』『日本語教授法演習Ⅰ』は履修済みのこと。

【評価方法】

総合的に評価する。授業態度＋授業への参加度＋発表＋レポート＋テスト

【テキスト】

- (1) 石田 敏子『日本語教授法』 大修館書店
- (2) 『みんなの日本語（初級Ⅰ本冊）』

【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

日本語教授法演習Ⅱ

担当教員 上原 明子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化学科対象

【授業のねらい】

日本語教授法演習Ⅰに引き続き、日本語教育に必要な基礎力の養成を行う。
教えるという視点で、日本語の文法・語彙・表現等を学ぶことにより、自分自身の日本語感覚を磨くことは、社会人基礎力にも国語教師の教育観を育てることに繋がる。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション 「ことばの感性」を磨く
- 2 「スティックファギア」と「コミュニケーションゲーム」
- 3 「ファシリテーション」の視点からの日本語教育
- 4 『教え方の手引き』分析・担当箇所決定教案（プログラムデザインマンドラ）
- 5 プログラムデザインマンドラ 実践
- 6 朗読・読解表現について（朗読・群読・ドラマ教育）
- 7 文型（1） ①6課 NをVます（動詞述語文）
②2課 NはNです（名詞述語文）
- 8 文型（2） ①8課NがAです（形容詞・形容動詞述語文）
②15課 Vています（アスペクト① *発話以前に起こった結果の状態）
- 9 文型（3） ①24課 くれる・あげる・もらう（授受表現）
②25課 Vたら～（仮定形）
- 10 文型（4） ①29課 Vています（自動詞と他動詞 アスペクト②*変化の結果の状態）
②30課 Vてあります・Vておきます（モダリティ）
- 11 文型（5） ①37課 れる・られる（受け身表現）
②39課 ～ので～（理由・説明）
- 12 文型（6） 文型のまとめとふりかえり
- 13 スピーチ教育（中・上級指導のために）
- 14 視聴覚教材（中・上級指導のために）
- 15 全体のまとめとふりかえり・教案改訂版レポート提出
- 16 学期末試験

【履修上の注意事項】

教育者としてのトレーニングコースであることを自覚し、各自で、学びの為のセルフ・ルールを決めて授業に臨むこと。

【評価方法】

- ①6回～12回の講義での担当箇所のレクチャー
- ②各授業毎の課題への取り組み
- ③毎回の授業についてのフィードバックレポートによるセルフラーニングも重視。

【テキスト】

『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク

【参考文献】

講義にて紹介